

No.2

31 Jan. 2004

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成16年1月31日

編集 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル4F (ニューギニア航空日本支社内) TEL03-5216-3555 FAX03-5216-3556

## 新年のご挨拶

日本・パプアニューギニア協会

会長 谷口 誠



日本・パプアニューギニア協会の皆様、新年明けましておめでとうございます。

新しい年が会員の皆様にとって、健康で希望に満ちた明るい年であることを祈念いたします。

当協会は、昨年5月のソマレ首相歓迎レセプションに始まり9月のパプア・ニューギニア独立28周年記念ゴルフなど、すでに活動を開始してまいりましたが、昨年来東京都庁に申請してきた当協会のNPO(非営利団体)としての正式認可が、近くおりの見通しとなりました。

したがって、本年は当協会の本格的活動を開始する記念すべき年に当たりますが、会員の皆様のご協力を得て、楽しく、実りある活動を行っていききたいと考えております。

当協会の会員数は昨年12月末で法人会員11、個人会員63とまだ多いとは言えませんが、本年はさらに増やしていきたいと念願しております。

会員の皆様におかれましても、ご友人、お知り合いの方々と、パプア・ニューギニアにご関心のある方がおられれば、是非お声をかけて下さい。

パプア・ニューギニアは、最近日本でもエグゾチックな観光の地、スクーバダイビングのメッカとして紹介されるようになりました。しかし、パプア・ニューギニアは、これ以外にも、南太平洋島嶼国の中では、最大の人口を擁し、石油、鉱物資源、林業、漁業、コーヒーなどの資源を有する発展の可能性を秘めた国であり、私はこの国は日本の経済協力と民間投資の増大により、大いに発展するものと確信しております。

またニューギニア航空の成田直行便も、現在は週一便ですが、現在交渉中の週二便が許可されれば、日本とパプア・ニューギニアとの距離は、さらに近く感じられることになるでしょう。

当協会もこのような新年の夢を描いて、日本とパプア・ニューギニアとの友好関係の促進に努めてまいりたいと希望しております。

会員の皆様の温かいご支援をお願いいたします。

2004年 元旦

## マイケル・マウエ駐日パプアニューギニア大使が大英勲章を叙勲

パプアニューギニア総督 シラス・アトパレ卿による  
マイケル・マウエ駐日パプアニューギニア大使への  
大英勲章第四位の(OBE)叙勲

2003年10月23日、私はパプアニューギニア国女王であるエリザベス2世女王により認められた、パプアニューギニア国に対する功労者に、他の著名な皆様と共に選ばれる光栄に浴しました。

授与式は、パプアニューギニア総督シラス・アトパレ卿の公邸である、コネドブ地区にあるガバメント・ハウス(総督公邸)で午後2時より始められました。

総督は、よく知られるように、英国又英連邦女王であるエリザベス2世の公式代理者で儀礼上のパプアニューギニア国家元首であります。



PNG総督公邸での授賞式

右から シラス・アトパレ総督夫妻/マウエ大使長兄 ピーター・マウエ/大使夫妻

50名近くの受賞者がパプアニューギニア国に対する貢献に対し勲章を授与されました。

ポート・モレスビー大司教がそのなかでも最も高位な大英勲章第一位(GBE)を授与され、又、他の方々は、大英勲章第二位(KBE)、大英勲章第三位(CBE)、大英勲章第四位(OBE)、大英勲章第五位(MBE)等のさまざまな勲章を授与されました。

出席が可能な全ての受賞者が授与式に参加しました。これらの受賞者には、学校の先生、看護婦さん、ビジネスマン、放送関係者、聖職者、市町村リーダー、パイロット、警察、防衛、刑務関係者などさまざまな分野の方が含まれておりました。

今回私が頂いた大英勲章第四位(OBE)は、私の公務生活、特に外交官としての貢献に対し授与されました。

授与式には私の妻メレ・マウエと兄のピーター・マウエも出席をさせていただき、受賞の証人とし又この映えある授与式において私と共に、喜びを分かち合う機会を得る事ができました。

今回のように、各自おのおのの仕事に対し勲章を頂ける事は稀有な事であります。

我々は日常の仕事を遂行する上で、その結果において勲章を頂く事を考える事は決してありません。

故に今回の受賞は私にとり非常に驚きであり、又同時に一層の喜びでありました。

今回の受賞を可能にした、私の妻の協力に又必要な折に側においてやれなかった子供達の理解に対し、深く感謝いたします。

又一緒に働いてきた同僚の皆様感謝いたします。彼らの協力無しには私の今回の叙勲は有りませんでした。

私と妻へのパプアニューギニアへの受賞式出席の為の旅行許可を上司である本省のペプソン外務次官より入手次第、2003年10月28日土曜発の航空便を予約しました。

そして授与式を滞りなく終え、一週間後に仕事の更なる熱情と共に東京へ帰って参りました。

全ての大きな儀式がそうであるように、今回の総督公邸での式も、私にとり非常に緊張するものでありました。

まず我々は総督公邸へ到着するやいなや、警備官により私が二人のみの同行である事を、検査確認され、フェアフェックス湾を望む、公邸正面玄関へ案内されました。

当日は良く澄み渡った青い空で、海はあくまでも青く、午後には始まる式典の成功を予感させるものでありました。

式典の一時間前に総督府の式部官より総督からの勲章授与の為の段取りの説明を受け、パプアニューギニア王立音楽隊の多くのパプアニューギニアの音楽演奏とともに、気分は大きく盛り上がりました。



総督と談笑中のマイケル・マウエ 駐日大使

式典が始まると、総督が起立されている上段に導かれ総督のもとへ歩み寄りました。お辞儀の後、さらに総督のもとへ近づき、勲章を背広に付けていただきました。首周りに掛けてもらった方もいらっしゃいました。

勲章受領後、授賞者は後退しお辞儀をしもとの場所へ着席します。式典は非常に感動的で私の心に深く残る思い出となりました。

式典後、総督より軽い飲み物の提供がありポート・モレスビーの暑い日ざしの中で、一同叙勲者は総督の心配りに感謝し、しばしの清涼を楽しみました。

式典後に、私は妻と共に近い友人をホテルに招待し小さな祝いの会を開きました。職場の又家族の友達に参加していただき、一生涯の思い出と人生の宝にもなる貴重な時間を持ちました。

今回の大英勲章第四位(OBE)の叙勲は、私にとり2回目の勲章でありました。1回目はパプアニューギニア独立25周年における、私が通産次官の時に頂きましたシルバージュベリー勲章で初めての叙勲で非常に興奮し又感謝した事を思い出します。今回の叙勲で勲章が2個となり、適切な折に、例えば、2004年元旦宮中参賀における天皇皇后両陛下又皇室の皆様にご挨拶を申し上げる折に又パプアニューギニア独立記念日等の式典に、是非着用したく思います。

私の国家建設の為の小さな貢献を認めていただいた政府に、あらためて感謝し、私の残りの任期を誠実に又能力の最善をもって仕えたいと思います。

神の祝福がパプアニューギニアにありますように!

2003年12月10日

パプアニューギニア大使 マイケル・マウエ

## 田中辰夫 前大使の報告会

2003年11月11日、日本・パプアニューギニア旅行業協会及び日本・パプアニューギニア協会の主催で、東京都千代田区のパレスビル(パレスホテルの隣)にて、田中辰夫前大使の旅行業関係者への報告会を会費制にて執り行いました。田中前大使は、1999年6月より2003年2月までパプアニューギニアに滞在されていたので、同国の最新情報を気さくにお話して頂こうと企画いたしました。

「報告会」は以下のように進みました。

当協会の事務局長島田よりはじめの挨拶/参加者、各人の自己紹介/田中前大使の報告/昼食をとりながら田中前大使と懇談/島田より終わりの挨拶



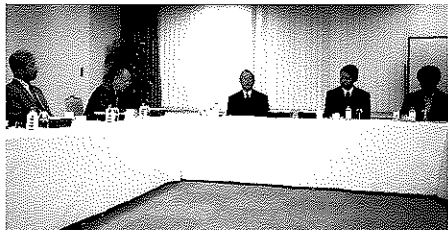
田中前パプアニューギニア大使

### 田中辰夫前大使からのお話(骨子)

パプアニューギニア(以下PNG)が、英国や豪州のように、「ウェストミンスター式」の立憲君主の民主主義国として独立したのは、28年前の1975年9月16日のことです。経済の運営も言論も基本的に自由であるし、多くの土着言語のほかにPNGの人は英語がうまいし、キリスト教文化も広まっているので、国の制度として英連邦内の先進国とかわらないような印象を受けます。

また、日本との関係で、ご存知の通りPNGの人たちは親日的ですし、また興味深い文化もあり、また自然の美しさにも恵まれています。そこで、多くの点でなじみを感じながら仕事ができます。ただ、独自の社会的伝統を有する数多くの集落共同体が一つにまとまって、急に一つの国民、一つの国家を作ったような感じの若い国です。日本もかなり協力していますが、国造りという点ではいましばらく時間がかかるのではないかと思います。

PNGをよりよく理解するためには、現在社会的に次のようないくつかの構成要素が相互に影響しあっていると考えると分かりやすいと思います。



一つ目は、大小の地域社会を作っている伝統的な集落共同体です。いまやこれが都市化現象とともに変わりつつあるといわれていますが、多くの共同体をこれまでそれぞれにまとめてきた掟(おきて)、とくに同じ集落出身者がやられたらやり返すという仕返し(ベイバック)の連帯意識はまだまだ強いものがあると言われていいます。そこで、人を理解するにはどの地方の出身者であるかを知ることも重要な情報です。二つ目は政治家の社会です。

国会は一院制で、109名の議員の任期は5年間で、独立以来ちゃんと5年ごとに総選挙が行われています。

複雑な地域の考え方や利害関係を反映するかのよう多数の政党があります。したがって政権作りや首相の選出も、第一党を中心にして政党の離合集散により、多数連立与党が作られるなかで行われます。

私が在勤した間に3人の首相に出会いました。着任当時の首相はスケート氏で、その後99年7月、財政建て直しを期待されて新首相になったのが、中央銀行総裁などを歴任した議員一期目のモラウタ氏です。



同氏は2002年8月に行われた総選挙で、PNG独立の父といわれるソマレ氏に敗れるまで、約3年間首相を務めました。経済財政面で赤字体質を無くすためには、経済の構造改革が必要であるという考え方の持ち主であったと思います。

たとえば、赤字の温床となっている公団公社の民営化に乗り出し、PNG金融公社の支店閉鎖などの合理化を行いました。

しかし、総選挙では、このモラウタ首相の民営化路線を国民的に名前を知られたソマレ氏が攻撃し、大衆的人気呼び戻したことが勝因になったと思われます。

三つ目は経済界です。PNGは石油、銅、木材、水産物、コブラ、コーヒーなど資源国ですが、これには豪州などの外国資本が進出しており、また独立以前から住み着いている豪州人や中国系のビジネスマンも活躍しています。

これについて現在のソマレ政権は、農林業の振興など自立型の経済回復を目指しています。四つ目は弁護士社会です。ポートモレスビーなど都会に豪州人出身者も含め弁護士がたくさんいるのに驚きました。

相当程度訴訟社会になっていますので、ビジネスなどをやるにあたってはこういう点も考慮に入れておく必要があると思います。

現在、日本との色々の関係が進みつつあります。また、わが国との距離は直行便のおかげで相互に短くなりました。

PNGは太平洋諸国の指導国としてわが国にとって重要であるので、さらに友好親善関係が進んで行くことが期待されます。

## Interview with Mr. Malcolm Smith-kela, Governor of Eastern Highlands Province by Irene Gashu 東ハイランド州知事 ミスター スミス・ケラ へのインタビュー

ゴロカは山々に囲まれた美しい町です。Eastern Highlands Province (東ハイランド州)知事、マルコム・スミス・ケラさんにインタビューすることができました。知事はイギリス生まれ、オーストラリア育ちの方です。ベトナム戦争で叙勲を受け、その後オーストラリア軍よりPNGに派遣され、この地に一目惚れされたそうです。退役後、ビジネスマンになられ、今はヘリコプター会社をはじめ15の会社を所有されています。昨年行われた選挙で当選され、忙しい日々を送られています。

**イレーネ** まず、日本に対してどんなイメージをお持ちですか？

**知事** 知事になるまでは日本のことは何も知りませんでしたが、今は日本がPNGを持続的に色々な面から支援していることが分かりました。あまり自己宣伝せず、教育、保健、そしてビジネスへの関心が強いんですね。

**イレーネ** 私がここで会った日本人、たとえば、私のホテルでダイバーとして仕事をされている野崎さんなど、みんな勤勉で良く働きます。

**イレーネ** PNGと日本は現在どのような関係にあると思いますか？

**知事** 将来にはどんなことを期待しますか？

**知事** 日本はPNGに対してとても良いことをしていると思います。しかし、私は

日本がPNGを支援・保護・後援する時代はもう終わりに近づいてきていると思います。これからは次の段階に入らなければならない、PNGをビジネスパートナーとして迎えて欲しいのです。

そうすれば、PNG人も貿易を通じて収入を得ることができ、生活が改善されます。

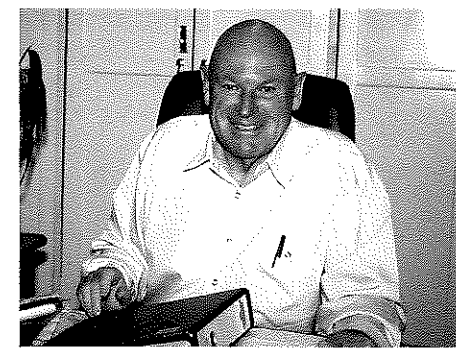
私の州には飢えている人はいませんが、貧困問題は山積しています。家族の平均年収は400から600キナ(16,000円から24,000円)で、そこから教育費、薬代、衣類等々全部は払えません。海外の方がPNGのオーガニック(有機)製品を買って下されれば良いのです。

何しろここは一年中春ですから何でも育ちます。我々はすでにコーヒーを輸出していますが、現在行われている取引はとても不公平なものです。スターバックスで1キロ当たり1400ドルで売られているにも拘らず、我々は1キロに対して、たった75セントしかもらっていません。

こんな大きな差額では、我々がコーヒーを作る意味がなくなります。

**イレーネ** ゴロカ・コーヒーについて伺います。なぜそんなに良い製品なのですか？

**知事** ゴロカ・コーヒーはブランド名です。私は東ハイランドコーヒーと呼んだほうが良いと思います。アラビカ・コーヒーもブランド名ですが、両方ともアラビカ豆を使っています。



マルコム・スミス・ケラ氏 パシフィック・ヘリコプターズ社のオフィスにて

日本からビジネスパーソンがきて、PNG人と合弁契約を結び、加工、包装されたものをレイから船で日本へ運ぶのが良いと思います。ここからでしたら3週間かかりませんし、真空パックであれば味は3ヶ月以上もちます。オーガニックですから少し値段を高く設定し、PNGの生産者の現金収入が少しでも増えれば、彼らの貧しさが緩和できます。

**イレーネ** オーガニックとはどういう意味ですか？

**知事** 農業や化学肥料を使わないで作った農作物のことです。PNGの農業は自然の土地で行われています。つまり、オーストラリアのオーガニック栽培は汚れた空気、産業排気ガスの中で行われますが、PNGの場合は、本当の自然の中で行われます。そして何万年も前から同じ方法で作っているのだから、オーガニック以上といっても過言ではないでしょう。

**イレーネ** 他に東ハイランド州には、どんな良い製品がありますか？

**知事** 色々あります。たとえば、イチゴ。美味しいですよ。ジャムも作っています。イチゴ、バナナ、パイナップル、果物はたくさんあります。パイナップルは甘くて美味しいです。ガーリック、しょうが、バニラなどのスパイスもお勧めします。花も栽培しています。葉が1mから3mと長いので輸出する予定です。

**イレーネ** 輸出はなさっていますか？

**知事** いいえ、今のところ輸出品はコーヒーだけです。しかし、ここは一年中温暖な気候ですので植物は良く育ちます。たとえば、オーストラリアは米の収穫が年1回だけですが、我々は年3回です。

**イレーネ** 将来期待できると思います。今は市場を探すことが先決問題です。話は変わりますが、現在、東京からポート・モレスビーまでの直行便は週1回です。これについてどう思いますか？

**知事** 増便したほうが良いと思いますか？今の段階では、答えは「いいえ」です。ニューギニア航空は経済的にさまざまなトラブルを抱えています。先に国内線を整理する必要があります。例えば、ゴロカからマダンへ行く日本人のお客様は増えていますが、ニューギニア航空はその度

にお客様をポート・モレスビーまで行かせて、そこからマダンへ移動させるのです。本当に遠回りさせるのです。このような状況にもかかわらず日本人観光客は増えています。手付かずの自然、絵のように美しい風景に引き寄せられるのでしょう。



自宅のリビングルームにPNGアートコレクションをもっているスミス・ケラ氏と賀集・イレーネさん

### インタビュー紹介

Irene Gashu (賀集 イレーネ)

日本・パプアニューギニア協会会員 / 日本・アルゼンチン協会理事 / NHKスペイン語ラジオアナウンサー / アルゼンチン共和国弁護士 / 写真家  
現在パプアニューギニアの伝統文化を紹介する写真個展を計画中

**イレーネ** 治安はどうですか？

**知事** 言われているほど悪くはないですよ。大使館は警告を出していますが、警告を出すべきなのは我々です。PNG人に「オーストラリアや米国へ行く時は気をつけてください」と。オーストラリアの犯罪とPNGの犯罪を比較すると、PNGは10倍安全です。オーストラリアでは自殺する子どもがいますが、PNGにはいません。オーストラリアでは麻薬問題がありますが、PNGには麻薬は存在しません。

**イレーネ** 最後になりましたが、日本・PNG協会の会員へ知事からのメッセージをお願いします。

**知事** まず、会員の皆様には、PNGについて真剣に考えて下さっていることを感謝します。

そしてさらに欲を言えば、知識を得るための団体ではなく、もっと深くかかわっていただけると嬉しいです。たとえば、一つの部族を取り上げてその部族の文化を護ってくれるとか。老人達が後世に自分達の文化を伝えられるように協力するとか。「もし具体的な目標があれば、それを達成するためにできるだけの協力をいたします」とお伝え下さい。

**イレーネ** ありがとうございます。

## パプアニューギニア独立記念日 チャリティーゴルフ・トーナメント パプアニューギニア大使館

パプアニューギニアの28回目の独立記念日を祝うチャリティーゴルフ・トーナメントが、2003年9月20日、群馬県の21世紀クラブ富岡ゴルフコースでおこなわれました。独立記念日に関する初めてのゴルフ大会であった本大会は、パプアニューギニア大使館、日本・パプアニューギニア協会、日本・パプアニューギニア議員連盟、21世紀クラブの

共催で催され、富岡市助役平井弘様、日本・パプアニューギニア協会会長谷口誠様をはじめ、150名の多くの皆様の御参加を頂きました。又、ニューギニア航空からのパプアニューギニアへの往復航空券をはじめ、皆様から多くの賞品のご提供を賜りました。パプアニューギニアよりは、パプアニューギニア首相マイケル・ソマレ卿より本大会を祝うメッセ

ージも届き、好天に恵まれ、皆様のご協力のもと、大会は成功に終了いたしました。本大会で頂きましたチャリティー基金は、日本・パプアニューギニア協会様で、お預かりいただきパプアニューギニアの為に一番良い形で使わせていただくとの事でありです。本大会の成功に勇気づけられ、又来年29回の独立記念日チャリティーゴルフを開催できる事を願っております。



### 最近の動き

- \* 本協会は昨年10月にNPOを申請、今春には正式にNPOとして登録される予定になっています。それと前後して3月頃、本協会総会開催を予定しております。
- \* 今年はNPOに正式に承認されることもあり、本協会には本腰を入れて活動に励みたいと張り切っております。会員の皆様のご要望に添った活動を展開していくためにも、ぜひ忌憚ないご意見をお寄せ下さい。また、一人でも多くの方に会員になって頂くためにも、お知り合の方にはぜひとも積極的に声をかけ下さい。

### お知らせ

**クルーズ客船「飛鳥」がマダンに寄港します！**  
2005年1月からのオセアニアグランドクルーズでは、定番寄港地に加え、初寄港のマダンが加わります。スケジュールは、横浜(1月18日)ー神戸(1月19日)ーパラオーマダンーケアンズーその後ニュージーランドや南太平洋を回りー横浜着(2月28日)ー神戸着(3月1日)の全行程41泊42日、7ヶ国12港となっています。  
詳細は、パプアニューギニア政府観光局 (TEL.03-5216-3555)までご連絡下さい。

### 編集後記

優勝者 坂口 征二さんとマウ工大使夫妻  
「ごらくちょう」2号は前号よりも、より多くの方に原稿を書いて頂けました。「ごらくちょう」は皆で作っていく会報誌にしたいと思っています。ぜひ皆様、お気軽に投稿して下さい。



## 日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。  
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円  
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

加入者名簿 / 番号 00140-2-277582  
先着順 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松見ビル4F  
(ニューギニア航空 日本支社内)  
電話:03-5216-3555 E-mail:info@air-niugini.co.jp

\*会員数 2003年12月末 法人会員 / 11 個人会員 / 63